

2023/08/24 開催 いけんひろば～農林水産省に行ってみよう！～  
対面開催回 いけんのまとめ

A 班（中学生／6名）

○消費者の部屋展示の手法

- 消費者の部屋に行かなくとも展示の内容をスマホで手軽に見られるようにすれば、いろいろな世代に知ってもらえるようになると思う。
- 文字だけでなく、五感に訴えかけられる展示ができればいいと思う。例えば、農業であれば育て方によって味の違いが生まれることを食べ比べしてもらったり、林業であれば、使う道具によって持ちやすさが変わることを実際に体験してもらったりすればよいと思う。
- 展示しているパネルの内容でクイズラリーをしてもらえば、もっとパネルをしっかりと見てもらえるようになると思う。
- 棚に置いてあるものが少なかったのが、道具など実際に触れられる展示があったらいいなと思った。
- もっと色々な人に楽しんでもらうために、いろいろな手法があればいいと思う。例えば、ガイドランスなどの音声を活用すれば、目の見えない人にも楽しんでもらえるようになると思う。
- 棚に置いてあった本（白書）を見てほしいページを開いた状態で置いておく。
- 小さい子どもたちも読めるように漢字にフリガナをつける。
- 展示していた白書は、ジュニア版を置いた方が「読んでみようかな」という気になると思う。
- とある自然史博物館では、実際にそこにある森で倒れていた木や動物をはく製にして展示していた。パネルなどは見慣れていると思うので、実物など普段見ないもののほうが、リアリティがあって楽しいので小さい子は見てくれると思う。
- 消費者の部屋だけで見学を終わらせず、消費者の部屋の内容と関連した場所にも行くようなツアー形式にしたらよいと思う。
- 白書のパネルが、教科書のように文章が多めで、補足としてグラフや写真があるようだったので、資料集のようにグラフや写真が多めで、補足として文章があるようにしてほしい。
- 社会科見学だとつまらなく感じるこどもが多いと思うので、遠足感を出せたらいいと思う。
- 月1くらいで他の省庁とコラボレーションする。
- 漫画も楽しかったが、パネルの近くに展示されていた鳥などの写真がかわいかったので、もっと写真を増やしたらいいと思う。
- 難しい用語を使って説明する時には、もう少しゆっくり大きな声で話したり、用語の説明を入れたりしてほしい。
- クラスの友達ときたら展示を見ずに友達としゃべってしまうと思うので、部屋に入っ

た時の第一印象で興味を持ってもらえるように、はく製等の普段目に触れないものや立体的な物を入り口付近や部屋全体に設置したらいいと思う。それによって、展示物の内容が多少薄くなったとしても、職員の人が説明してくれたので、問題ないと思う。

- 試食をしてみたいと思った。

### ○農林水産省の業務説明の手法

- その部署が実際に仕事している風景を図や写真で示せたら良いと思う。
- 配られた白書をもとに説明していただくと手元の資料に集中してしまい、話している人の目を見られなかったので、話し手がスライドを投影しながら説明するとよいと思う。
- 人が話していると集中できなかつたりすることがあるので、1つの動画にまとめて紹介してくれたらよいと思う。動画の中では、実際に仕事している風景を流したり、大臣が出演したりできたらいい。
- クイズをもっと増やしたらいいと思う。
- 業務説明の後にチェック形式のクイズを配り、それに「〇問以上正解したら景品が貰える」というようにすれば、もっと話を集中して聞いてくれると思う。
- DNA 鑑定の話等、農林水産省が自分たちのためにこんなことまでしてくれていることが知れて嬉しかった。パワーポイントを使うのもいいかもしれないが、口頭説明だけでも面白かった。
- 消費・安全局以外の人にも来てもらって面白い話をしてもらえるといいと思う。遠くで働いている人の場合は、オンラインで話してもらえたらいい。

### ○学校訪問で体験したかったこと

- 大臣室に入ってみたかった。
- 大臣から、大臣になるまでの話などを聞いてみたかった。
- こども家庭庁でやっていたように、大臣に直接自分の意見を伝えたり質問したりできる機会があればいいと思った。
- 例えば、カードを使った簡単なゲームができたらいいと思う。
- 売店で展示内容にちなんだお土産を作ったらいいと思う。

### ○農林水産省の取組（展示内容関連）

- このまえ母がニンニクを買う時、安いスペイン産のものを選ぼうとしていたので青森県産を選ぶよう説得した。食糧自給率が下がっている理由は消費者の意識の低さだと思うので、1週間に1回でもいいからみんなが国産のものを買うように促せたらいいと思う。
- 必然的に国産のものを買わなければいけない状況を作り出したらいいと思う。例えば、

地産地消でなるべく値段を抑えて、国産のものしか取り扱っていないチェーン店を作る。

- ビジネスチャレンジのように、「ある期間国産だけを食べると自給率が〇%上がります」などと発信したらいいと思う。
- 農林水産省が補助金を出して国産のものを値引きする期間を作れば、自給率も上がるし、農林水産省が食料自給率の問題に真剣に取り組んでいると印象を持ってもらえると思う。
- 下がっている食料自給率を上げる週間にしようという内容のCMを流す。
- JA（農業協同組合）と協力して国産のものを買ったらポイントが貯まるようにする。
- こどもたちに食料自給率問題に危機感を持ってもらえるような機会を学校で作って、こども発信でロコミのように大人たちに伝わっていったらいいと思う。
- 食育系の教育を増やす。
- 普段やっているような宿題の代わりに、保護者に国産のものを買うよう説得するという宿題を出す。
- 読書感想文や自由研究の代わりに、ご飯の研究を課題にする。

以上

## B 班（中学生・高校生／5名）

### ○消費者の部屋の展示手法

- 部屋の展示が良かった。漫画やイラストがあり、良かった。手に取って見られる資料や持って帰れる資料が多いのが良かった。1回だけみただけでは忘れてしまうこともあるが、家など別の場所でも確認できるので、良い効果があると思った。
- 展示は良かった。テレビでビデオの映像が流れていたことについて、個人的な話になるが、昔YouTubeをやっていたこともあるが、映像に字幕を付けてくれば若者に親しみがある人工ボイスが使える。ゆっくりとした実況や、「ずんだもん」のような声を使った映像の方が良い。そういった声も使った方が、若者に映像の情報が入っていきやすいと思う。
- 入ったところにまず白書があり、難しいイメージがあった。入口が大切なので、改善した方が良いと思う。漫画が最初にあった方が、引き止められると思う。白書は、字がいっぱいあって難しかった。
- 長崎の原爆資料館には、触れる展示があった。触れる展示もあると、幼い子にも興味を持ってもらえると思った。
- ポスターやイラストが多かったが、物体の展示や自分が体験できる展示もあった方が、写真も撮れるし覚えておきやすい。記者会見の部屋は、体験ができて、堅苦しくなくナチュラルに楽しめた。
- 触る展示もそうだが、例えば画用紙で森林を作ったとして、それを矢印マークなどで動かせるとか、フォトスポット的なものもあれば良いと思った。思い出せる、写真を撮れる場所は大事だと思う。実際に、今フォトスポットがあったとしても、分かりにくかった。足元にカメラのマークを書いておくなど、写真を撮っていいことがより分かりやすいと良いと思った。
- タッチパネルを使った展示も良いと思う。最近の新しい駅では、タッチパネルで案内があるところがある。質問などを並べて、ボタンを押したら読み上げてくれるなどのサービスがあっても良いと思った。
- 展示室という形よりも、空間として見せることも大事だと思う。この間アニメの展示に行った際に、アニメのセットが作られていた。林業の展示であれば、森の雰囲気を出したり、林業従事者の目線に立てたりする展示になっているとより良いと思った。インスタ映えを狙えると思う。森のにおい、風、音などがあっても良いと思う。テーマパークのように空間として楽しめる展示だと楽しいと思う。
- 展示室に入ると言うよりも、森に入ったら、展示があるという形の方が、身構えなくも入れると思う。今日は少し展示室に入るぞと身構えたので、音や風などで本当に森に入る感じの方が良い。

- ○mと記載があるだけよりも、実際にそのサイズの展示があり、自分の身長と比べて見てください、などできれば良いと思う。
- 白書が難しいという話があったが、レイアウトは変えた方が良いと思う。空間として入っていけるように、ストーリー仕立てのような感じにするのも良いと思う。
- ディズニーランドのイツアスモールワールドのような感じで、音楽があつて、物語があつて、人形がいるのもいいと思った。
- 僕自身は白書を最初に置いておくのもありだと思う。簡単なものだけ先に置くと「もう終わった」と思ってしまう。ストーリーのように、導入→面白い内容という流れにするのであれば、最初に白書、その後に漫画があるという形でも良いと思う。
- 農林水産省の方は、「食べてください」と言ってくれているが、消費者の方に美味しいと思ってもらえた方が良いと思うので、実際に試食ができると良いと思った。
- 消費者があまり思いつかないような料理を試食でき、そのレシピを配ってくれると家でも作れるので、なお良い。
- 国産の野菜などの魅力も試食などで知れたら嬉しい。
- 

#### ○農林水産省の業務説明の手法

- (廊下にあった) 左右のポスターなどの紹介も絡めてくれると、分かりやすいと思った。分かりやすいところから入るのが良いと思った。
- 展示に書いていない情報の説明もあり、分かりやすく面白かった。
- 声だけではなく、イラストと一緒に説明しており、また工夫を交えていて良かったと思う。
- 歩きながらの説明なので、会話の流れなども自然で良かった。

#### ○学校訪問で体験したかったこと

- 1つでも良いので、実際に仕事をしている部屋に入りたい。インタビューの時間を取ってもらうことも難しいと思うので、どんな業務をしているのか見たい。
- 生で、仕事をしている姿を見たい。
- 大臣が料理を教えてくれるのがあったら、面白い。
- 農林水産省の大臣や副大臣などに対して、子どもから大人まで実際に質問できたら、より印象に残ると思う。
- 今日もし、実際に大臣に会えていたら、「今日の午後1時に海に処理水が流れると思うが、それが安全で、外国の方から風評被害を受けないのか」や「国際的に安全でも、国民は心配なので、そのことについてどう思うか」を聞いてみたいと思った。

## ○農林水産省の取組（展示内容関連）

- 企業は一般の人に発信する時に SNS を良く使っているが、X（旧 Twitter）などを使ってエンタメ性を盛り込んだ発信ができれば注目を浴びると思う。例えば、飲食店などの SNS では、正規の食べ方ではない食べ方を紹介しており、意外性がある。例えば、日清のカップヌードルが X（旧 Twitter）で発信している内容や CM は面白い。発信している中の人のはじめたことを言うと、より面白い。1 回バズれば、認知度が上がる。
- 日清のカップヌードルは、フレディ・マーキュリーがカップヌードルの替え歌を作っていたり、ゴルバチョフと組み合わせた CM を作っていたりした。国内の岸田総理など重要人物を使って、宣伝を試みたら拡散されるのではないかと。
- 若者に人気の人物を使うのも良いと思う。芸人さん、YouTuber などでも良い。
- もともとあった CM のオマージュをやってみるのはどうか。
- 何かのパロディは親しみやすい。
- 駅でのポスターなどが良いと思った。SNS で広めるのは難しいのではないかと考えている。SNS はユーザーが見る内容を選択することが多いので、もともと知っているか、または有名人とコラボなどが必要になると思う。人が多く使う駅などの場所でポスターなどを貼った方がより多くの人に知ってもらえると思う。新宿駅にある、猫が立体的に見える電子ポスターも良いと思う。
- 小さいポスターだと、スマホを見ながら歩いているのであまり見ないと思う。ただ、新宿駅の大規模ポスターならば、高い位置にあって飛び出して見えるので、ふと目に入る気がする。
- 木材で作られている家と、れんがの家を比較して、それぞれのメリットを消費者に伝えたら、木材が使われるのではないかと。木材を家で使ってもらうためには、デザイナーズマンションなどおしゃれなところで使うのが良いと思う。
- デザイナーズマンションで木を使っている事例などを Vlog や YouTube、インスタなどで紹介してほしい。おしゃれな動画なら見る。
- ポスターに SNS 中の人のネタやネットミームなどを入れれば、通りすがりの人が写真を撮ってくれて、広がるということがありそう。その 1 枚の写真が拡散して、聖地巡礼のように、みんな来るのではないかと。
- その場合、場所も重要になると思う。新宿や渋谷など、みんなが行きやすい場所が良いと思う。
- 歩いている人の視線がいく場所にポスターがあると良いと思う。在来線の改札前の階段の広告は良く目に入る。
- どこをターゲットにするのかが大事。もっとピンポイントにターゲットを絞った方が、狙ったターゲット層により強く響くと思う。

以上

## C 班（高校生／6名）

### ○消費者の部屋の展示手法

- 最初の展示のところで白書があった。もっと読んでみたいと思った。白書自体の存在を知らなかったので「こういうものがあるんだ」という驚きがあった。内容は少し難しかったが、面白いページもあった。
- 白書の存在を知らなかった。過去の白書を見て面白かったので、時間があればもっと見てみたい。
- 白書の簡易版メモなど概要版があれば分かり易くて良いと思った。また、体験コーナーのようなものがあればより良いと思った。記者の体験とかがあると面白そう。
- 現場に出ている方のビデオをみて、話を聞くことができれば面白いと思う。
- 漆塗りの説明があったが、実際に木に漆を塗る体験あれば面白い。
- 林野庁の展示だったので、「この木はこういうものになる」というものが、実際に置いてあると面白い。
- 実際に触ることができるものや、模型があれば面白いと思った。床や壁などに緑があると良いと思った。雰囲気は少し簡素な印象だった。
- 部屋が寒かった。
- 消費者の部屋は一般開放しているとのことだが、入りづらい印象だった。一般開放している旨をもっと分かりやすく示したほうが良いと思う。
- 木材が自動車の部品に使われているなど印象的な内容があったので、そのように印象深い展示があったら嬉しいと思う。
- 雑学めいた内容の展示があると嬉しい。
- 「森林が7割」という情報は中学校で習った。もう少し、学校で習ったことがない内容を紹介して欲しい。
- 竹林問題が重要視されている。知られていない問題も拾えると良いのではないか。竹林を活かした地域活性化などの情報があると良いと思う。
- 白書については、小学生も来るのであればフリガナを振ったほうが良いと思った。
- 缶バッチ、キーホルダー、資料などがあると貰って嬉しい。
- 缶バッチ・キーホルダーは必要ないと思う人もいるかもしれない。ペンや消しゴムなどの普段使いできるものが好ましいのではないか。学校では変わった文房具を使っていると友達との会話に発展する。
- 缶バッチ・キーホルダーは貰ったとしても、鞆につけることに抵抗を感じるかもしれない。例えば、木で作った文具など農林水産省独自の特別感があるものだと良いのではないか。

### ○農林水産省の業務説明の手法

- 時間がなかったので仕方がないが、農林水産省の人がどんな仕事をしているのかももう少し聞きたかった。「この部屋ではこんなことをしているよ」と聞きたかった。
- 食料自給率の話が面白かった。
- 他の局が何をしているのかが分からなかった。関心があるので、色々な話が聞けたら良いと思った。
- 学校で習っていることは省いて、知らない内容を説明してもらえたのは嬉しかった。
- 大学とかでどのようなことを学べば農林水産省に入れるのかを聞きたかった。業務説明を聞いて農林水産省への就職を考える人もいるかもしれない。農林水産省で働くきっかけも聞いてみたい。
- 農水振興局が何をしているのか気になった。集落を盛り上げるなど地域を活性化させる活動に関する情報を知りたい。
- 「一口お米を食べると食料自給率が上がる」と教えていただいたが、具体的な数字があるとわかりやすく、小学生でも理解できそうだった。
- 話を聞くだけではなく、ワークショップ形式のような感じだと良いのではないかと思った。話を聞くだけではなく、各局の仕事内容を穴埋めクイズなどの形式で学べると良いと思った。
- 見学ツアーを回っている時に弁当販売があった。職員の1日のスケジュールが知りたい。
- 時間がなかったから仕方がないが、質問コーナーがあれば良かった。
- 食料自給率の話を聞いて「お米を1口多く食べたい」と思った。
- 自分はお米派であり、現在でも1日5杯食べているため、もっと食べられるかは疑問に思った。
- ラベルの話で、どれが国産なのか当ててみるクイズがあれば面白いと思った。全部データで出しているのか、目で見て怪しくないかチェックしているのか、など仕事に関わる内容が聞きたい。

### ○学校訪問で体験したかったこと

- 記者会見室が楽しかった。記者側の椅子に座れたのが良かった。また、上にマイクがついていて面白かった。
- 農林水産省の庁舎の中に入ることができたのは良かった。なかなか無い機会だったと思う。
- 大臣室の中を少しでも良いから見たかった。
- 体験できる場所があったら自分も学べるし楽しいなと思った。
- 間伐材の質問をした際に、すぐに教えてもらったことが良いと思った。

- 省内を回る前に、クイズを出しても良いのかもしれない。例えば「大臣室の広さは？」などとクイズを出しておくことで、もっと興味を持って回ってもらえるようになるのではないかな。

#### ○農林水産省の取組（展示内容関連）

- ボランティアの情報が得られると良いと思う。農作物の収穫の手伝いなど一般人でもできるようなボランティアの情報があると嬉しい。
- 小学校の屋上での農業体験などがあるが、そういうことを体験できると良いと感じた。
- ボランティアの案内が資料に同封してあると、「じゃあ行こうかな」と思える。
- イベントやフェアを省内だけではなく、外部で実施すると良いのではないかな。そのほうが行きやすい。イベントや教育プログラム、インターンなどを全国で開催すれば色々な人が参加できると思う。
- 農林水産省と似たような場所として、他の省庁が近くにある。他の省庁に入れるイベントも案内してもらえれば「そちらにも行ってみようか」と感じると思う。
- 農林水産省が最近どんなことをやっているのかを知りたいと思った。
- 農業や水産業が発達している地域が多いので、地産地消できるレストランがあると消費者にとっては魅力的だと思う。
- ラベルの話で、スーパーに行って調査しているというのが意外だった。自分の生活に身近な話が良いと思った。
- 自分の住んでいる地域では学校での農業体験がなかった。学校のカリキュラムに農業体験があれば農業に興味を持てると感じた。
- 日本は食品ロスが多い。小学生は好き嫌いが多いと思うが、自分で育てたら「頑張って食べよう」となるのではないかな。
- 間伐が進むと森林が保全できるが、間伐しすぎても良くないという情報に驚いた。
- 農家以外の方は田んぼの購入が制限されているらしく、それが農業の新規参入の障害になっていると感じた。
- 今回のように農林水産省を訪問した人には、林業を助けたり、寄付・募金をしたりなど「自分にできること」を考えてもらえると良いのではないかな。
- 農水訪問のお土産として植物の種とかを貰えたら育ててみようかなと思えるのではないかな。水耕栽培など手軽にできるものがある。農業をより身近に感じることができるのではないかな。きっかけがあれば家で出来ることもあると思う。

以上